

福島県文化財センター白河館

年報 2 0 1 3

～平成 2 4 年度実績～

財団法人福島県文化振興財団

福島県文化財センター白河館

年報 2013 の発刊によせて

館長 菊池 徹夫

2011年3月の東日本大震災からすでに2年半以上が経過しました。被災された方々、いまなお原発事故で苦しみに遭われている皆様に、改めて心からお見舞い申し上げます。

当館は、震災直後から「元気発信」を合い言葉に、復興の一助となるべく様々な活動に参りました。特に、2012年は、被災した野外展示施設や収蔵庫の修理が1年がかりでようやく完了し、5月のゴールデンウィークまほろんまつりから全館を再開いたしました。

本来は、2011年7月に開催する予定であった開館10周年記念事業も、2012年5月19日に開催し、記念式典や県内各地の伝統芸能の披露などを行い、大勢の方々の祝福を受けることができました。何より嬉しかったのは、小さな頃から当館に足を運んでくれた子どもたちが中学生となって、お祝いの言葉を述べてくれたことです。児童・生徒の成長に重ねて当館の歩みを実感することができました。皆様のご支援に改めて感謝申し上げます。

そして、季節ごとのさまざまなイベントに加え、11月にはこれも震災によって順延となっていた「古代の鉄づくり」を行うなど、まほろん本来の活動がようやく軌道に乗ってきたように感じております。

来館者は年間で26,597人となり、様々なモノづくりを体験する「実技講座」や「文化財研修」、「文化財講演会」など多くの事業に参加し、学び、楽しんでいただきました。

さらに、昨年度には余震の影響を心配して実施できなかった分も合わせ、企画展を6回行いました。10年間の活動を紹介するポスター展「まほろんの歩み」や東京大学などに収蔵されている福島県発掘の考古資料を里帰りさせて、本県の考古学事始めについて紹介した「ふくしま考古学研究の春暁（しゅんぎょう）」展など、特色ある展示を行いました。

館外へ積極的に出かける「おでかけまほろん」は、過去最高の40校になり、延べ1,509人もの利用がありました。

3月には、福島県が取り組んでいる「被災ミュージアム再興事業」によって、浜通りで被災した歴史資料館や博物館施設から搬出された大切な文化財を展示する特別企画展を開催しました。県内各地に避難され、仮住まいされている関係町の住民の方々が、多数この展示を見学され、故郷の文化財を通して様々な想いを持たれたようです。

震災被害の風化が危惧される中であって、私は、まほろんの活動の原点を改めて考えさせられています。今後とも、本県復興の一助となるよう、まほろんの活動を通じて県民の皆様に、少しでも元気を発信し続けて参りたいと考えております。



開館 10 周年記念式典



古代の鉄づくり

目 次

第1章 まほろんの概要	9	その他	23
1 まほろんの業務	1	1. 年報2012の発行	23
2 まほろんの沿革	1	2. 運営協議会の開催	23
3 平成24年度の主な行事	2	3. 博物館学学外実習	23
4 東日本大震災の影響	2		
第2章 管理業務の実施状況及び利用状況		第3章 平成24年度の組織と予算	
1 利用状況	3	1 組織	24
1. 利用者数	3	2 予算	24
2. 入館者数の内訳と傾向	3		
2 維持管理に関する業務	5	第4章 まほろん施設の概要	25
1. 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務	5	第5章 まほろんの条例・規則	
2. 施設・設備等の修繕状況	5	1 福島県文化財センター白河館条例	27
3. 備品・物品管理業務	5	2 福島県文化財センター白河館条例 施行規則	27
3 文化財の収蔵・保管に関する業務	6	まほろんの利用案内	28
1. 収蔵資料	6		
2. 資料貸し出し	6		
3. 写真掲載等承認	6		
4. 資料閲覧	7		
4 文化財の活用に関する業務	8		
1. 常設展示	8		
2. 企画展示	10		
3. 講演会等	15		
4. 体験学習	16		
5 文化財に関する情報発信	19		
1. ホームページによる情報発信	19		
2. データベースによる情報提供	19		
3. まほろん通信の発行	20		
6 文化財に関する研修事業	20		
1. 研修事業の概要	20		
2. 研修実施状況	20		
7 文化財の活用に関する調査研究	22		
1. 復元品製作研究	22		
2. 研究紀要	22		
8 ボランティアの運営	22		
1. 募集	22		
2. 登録	22		
3. 活動内容	23		
4. 受け入れ体制	23		

第1章 まほろんの概要

1 まほろんの業務

まほろん（福島県文化財センター白河館）は、福島県が設置した文化施設で、平成13年7月に開館し、平成24年7月には、開館して11年を迎えた。

まほろんは、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真や図面などの資料を収蔵・管理し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等の文化財研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県では、開館から平成17年度まで（財）福島県文化振興事業団に業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入して、管理の業務を行う法人等を広く公募し、平成18年度から平成20年度まで（第1期）、平成21年度から平成25年度まで（第2期）、財団法人福島県文化振興財団（24年10月に名称変更）が管理業務を行っている。

指定管理者が行う業務は、以下の通りである。
○考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

○文化財の講演会、講習会等の開催に関すること。

○文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

○文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

○文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

○考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

○白河館の維持管理に関すること。

○上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

まほろんは、全国に先駆けて設立された県単位の埋蔵文化財収蔵保管施設であり、またこの貴重な文化財を様々な形で活用する施設でもある。「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”

体験型ミュージアムを目指している。

2 まほろんの沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人に

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人に

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日

東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4月30日まで臨時休館

平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任

平成23年5月1日

震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外施設を除き、再開館

平成24年4月15日

野外展示施設修繕完了、公開を再開

平成24年5月3日

一般収蔵庫修繕完了、公開を再開

平成24年5月19日

開館10周年記念事業を実施

3 平成24年度の主な行事

平成24年5月19日

開館10周年記念式典・記念イベント

平成24年3月6日～5月20日

指定文化財展「ふくしまの重要文化財Ⅸ 三島町荒屋敷遺跡」

平成24年6月23日～8月26日

収蔵資料展「新編陸奥国風土記巻之十 標葉郡」

平成24年7月29日 まほろん夏まつり

平成24年9月15日～9月23日

ポスター展「まほろんの歩み」

平成24年10月6日～12月2日

ふくしま里帰り展「ふくしま考古学研究の春暁」

平成24年11月3日～4日 古代の鉄づくり

平成24年12月2日 まほろんもちつき大会

平成24年12月22日～平成25年2月17日

指定文化財展「ふくしまの重要文化財Ⅹ 福島市和台遺跡」

平成25年2月17日 まほろん冬まつり

平成25年3月7日～6月9日

『特別企画展』文化財復興展「救出された双葉郡の文化財Ⅰ」



開館10周年記念イベント「鹿嶋神社白河提灯まつり浦安の舞」

ふくしま里帰り展

ふくしま考古学研究の春暁

— 棚倉式土器の発見・新地貝塚の発掘 —

**2012年
10月6日(土)
～12月2日(日)**

会場：まほろん特別展示室
主催：(財)福島県文化振興事業団
後援：棚倉町教育委員会
新地町教育委員会

崖ノ上遺跡（棚倉町）

関連行事
＜文化財講演会＞
棚倉港最後の殿様
阿部正功の生涯と学問
— 人類学・土俗学・考古学 —
日時 10月7日(日)
13:30～15:30
講師 丸山美幸氏
(学習院大学史料館学芸員)
会場 まほろん講堂
人数 60名(先着順、事前申込は、不要です)

新地貝塚（新地町）

まほろん
福島県文化財センター ● 白河館

〒961-0025 白河市白河一丁目 66
Tel: 0248-21-0700 Fax: 0248-21-1075
E-mail: off@cellehoron.fks.ed.jp
ホームページ www.maboron.jp

◆観覧時間 9:30～17:00(入館は、16:30まで)
◆休館日 10月8日(祝日)毎週月曜日、10月9日(火)
◆入館料 無料
◆交通案内 「只見駅」または「只見駅」から、福島県道「大」(まほろん)・市道(新地)・白河行きに乗り、「まほろん」下車

「ふくしま考古学研究の春暁」ポスター

4 東日本大震災の影響

平成23年3月11日に発生した大震災の影響で、茅屋根の崩れなどが発生し、立ち入りを制限していた縄文時代の家などの野外展示施設が、修繕を完了し平成24年4月15日に公開を再開した。また、ブレースの破断や柱脚に被害(ベースモルタルの破壊等)があった一般収蔵庫は、修繕を完了し、同年5月3日のGWまほろんまつりから公開を再開した。



公開を再開した縄文時代の家での火焚き

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

平成24年度の総利用者数は、30,662名（23年度24,731名）で、その内訳は入館者数が26,597名（23年度22,528名）、館外利用者数が4,065名（23年度2,203名）となり、震災の影響で入館者が大幅に減少した23年度に比べて、入館者数・館外利用者数とも増加した。

入館者数は、4月には開館以来の累計が35万人に達し、東日本大震災の影響で減少した平成23年度に対して、18%増加した。

団体客・一般客ともに増加し、特に県外からの入館者数は3,459名で、昨年度に比べ37%の増加となった。

震災の影響で、事業の見直しをせざるを得ず、23年度に実施できなかった企画展やイベントを24年度に行った。これらにかかる広報も、イベント時の近隣小学校全生徒へのチラシ配布や県南地域小学校への直接訪問などきめ細かく行った。

また、「元気発信」を合い言葉に積極的に館外活動を行った結果、「おでかけまほろん」の実施箇所は40校となり、開館以来初めて1,000名を超えた昨年度を更に上回り、過去最高の1,509名が利用した。

2. 入館者数の内訳と傾向

(1) 地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が87%（うち、白河市34.9%）、県外が13%であった。全体に占める県外からの入館者数の割合が、昨年度から2%増加し、相対的に県内からの入館者数は2%減少した。

県内の入館者のうち、白河市内からの入館者がその割合を減少させており、白河市内及び東西白河郡内からの入館者数に対して、県内のその他地域からの入館者数が増加している。

福島県の補助事業「ふくしまっ子体験活動応援事業」を利用した学校利用や、浜通り地域から県内に一時避難している方々が企画展等の観覧・体験活動のために来館された結果と考えられる。

他方県外からの利用者は、震災直後に比べ原発事故の放射能への懸念が軽減されてきていることからか、前年度から37%増加して、3,459名となった。震災以前の平成22年度の県外からの来館者数5,108名という水準に近づきつつある。

月別入館者数

	平成24年度							平成23年度	
	開館日数	幼児	小中学生	高校生	一 般	入館者数	館外利用者数	入館者数	館外利用者数
4月	26	65	1,008	10	1,108	2,191	429	58	0
5月	26	216	1,246	30	1,898	3,390	417	1,938	259
6月	26	127	1,619	20	1,517	3,283	296	2,114	381
7月	28	144	843	20	1,391	2,398	105	2,493	190
8月	30	215	854	16	1,521	2,606	102	1,959	264
9月	26	175	896	11	1,323	2,405	698	3,598	721
10月	26	206	928	35	1,377	2,546	1,135	2,593	263
11月	26	70	339	11	1,253	1,673	114	2,216	45
12月	23	268	447	10	1,215	1,940	288	1,284	26
1月	23	32	239	1	561	833	0	1,190	20
2月	24	182	321	16	1,104	1,623	25	1,759	28
3月	26	132	206	17	1,354	1,709	456	1,326	6
合計	310日	1,832人	8,946人	197人	15,622人	26,597人	4,065人	22,528人	2,203人

（２）年齢別利用状況

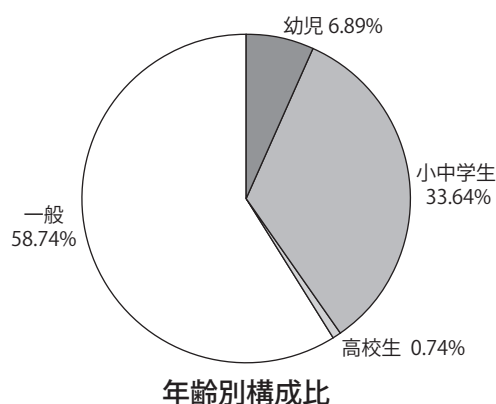
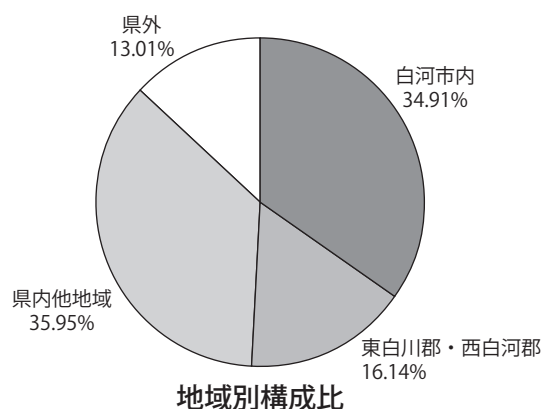
児童・生徒の入館者数が、前年度より1,156名増加し、10,975名となった。

また、一般（大人）の入館者数が、前年度より2,913名増加し、一般の入館者数の増加率が大きい。

（３）団体利用状況

団体の入館総数は273団体で、前年度より43団体増加した。特に小学校の利用件数は、104団体5,424人で過去最高となった。23年度7月にスタートした福島県の補助事業「ふくしまっ子体験事業」も事業継続されていることから、これを利用する団体も多く、また、地道な学校訪問などの成果が現れているものと推察される。

また、生涯学習施設や公民館単位での来館が減少する一方で、福祉施設やデイケアサービスでの利用が増加し、近隣の温泉施設が観光客を引率して利用する団体数（「その他」に計上）も23年度に比べ21%増加し、入館者実数も震災以前の平成22年度どほぼ同数となっている。



団体利用者一覧

団 体			平成24年度													平成23年
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計
学校関係	幼稚園・保育園	園数		1	1	1		1	3					7	7	
		来館者数		19	67	25		73	140					324	334	
	小学校	学校数	16	16	26	10	2	13	11	3		5	2	104	83	
		来館者数	747	731	1,483	558	121	574	774	167		179	90	5,424	4763	
	中学校	学校数		1			2	1			1		1	6	8	
		来館者数		28			89	22			7			7	153	549
	高等学校	学校数		1					2					3	3	
		来館者数		25					34					59	131	
	養護学校	学校数			1			1			1			3	2	
		来館者数			7			10			13			30	29	
	大学	学校数						1		1	1			3	1	
		来館者数						4		37	13			54	29	
幼小中高PTA （保護者のみ）	学校数												0	0		
	来館者数												0	0		
幼小中高PTA （親子レク等）	学校数			2	1		3	2					8	11		
	来館者数			128	22		151	122					423	482		
生涯学習関係	研究会	会数			2					1			3	4		
		来館者数			69					13			82	62		
		会数		1	2	3	1					1	8	8		
	子ども会	来館者数			26	43	88	52					33	242	286	
		館数			2	4	2	3	1	1	3			16	30	
	公民館等	来館者数			64	85	35	77	40	38	54			393	700	
社会福祉関係	福祉施設・デイ ケアサービス	団体数		6	1		1	2	9	10	3	1	1	1	35	11
		来館者数		49	9		8	27	86	88	39	8	11	8	333	134
文化団体関係	資料館等	館数						1						1	2	
		来館者数						41						41	95	
	歴史研究	団体数				2	1	1						4	3	
		来館者数				42	24	34						100	69	
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数	1			1		1	2	1			2	1	9	5
		来館者数	32			24		8	16	9			41	14	144	58
その他	その他	団体数	2	3	12	8	2	4	12	10	6		2	2	63	52
		来館者数	40	84	265	162	37	138	252	200	153		42	47	1,420	1050
合計	団体数		19	28	48	29	13	33	42	27	15	6	7	6	273	230
	団体来館者数		819	936	2,118	961	402	1,211	1,464	552	279	187	184	109	9,222	8771
総来館者数			2,191	3,390	3,283	2,398	2,606	2,405	2,546	1,673	1,940	833	1,623	1,709	26,597	22,528
団体利用者の割合（％）			37.38%	27.61%	64.51%	40.08%	15.43%	50.35%	57.50%	32.99%	14.38%	22.45%	11.34%	6.38%	34.67%	38.93%

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務仕様書」に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 空調設備点検業務／常光サービス(株)
- (2) 消防設備保守点検業務
／車田電気工業(株)
- (3) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
／(株)ハイン
- (4) 自動ドア保全業務
／昭和建産福島販売(株)
- (5) 自家用電気工作物保安管理業務
／(有)メンテナンス東北
- (6) 展示用及び講堂用AV機器保守点検業務
／(株)オリエンタル・エージェンシー
- (7) 植栽管理業務
／(有)白河園芸総合センター
- (8) 清掃業務／(株)タイセークリーン
- (9) 警備業務／福島総合警備保障(株)
- (10) 電話設備等点検業務／(株)ユニテック
- (11) 除雪業務／(株)松本工務店

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 平成24年5月14日
常設展示室照明ライン修繕
- (2) 平成24年5月16日
前方後円墳照明制御盤修繕
- (3) 平成24年5月17日
屋内女子トイレ子供用自動水栓修繕
- (4) 平成24年7月2日
電気室力率計・周波数計修繕
- (5) 平成24年10月7日
車両(ADバン)ブレーキドラム修繕
- (6) 平成24年11月15日
チェーンソー修繕
- (7) 平成24年11月30日
車両(ADバン)スターターモーター修繕
- (8) 平成24年12月21日
一般収蔵庫リレー制御盤ターミナルアダプタ修繕

- (9) 平成24年12月10日
常設展示室GHP室内機加湿ノズル交換修繕
- (10) 平成24年12月21日
常設展示室「昭和の暮らし」白黒テレビ修繕
- (11) 平成24年12月26日
野外展示「前方後円墳」感知式照明センサー修繕
- (12) 平成24年12月26日
展示台クロス張り替え修繕
- (13) 平成25年2月27日
体験学習館ガス漏れ検知器交換
- (14) 平成25年3月15日
室町時代の館の門扉・木橋・木柱固定縄交換修繕
- (15) 平成25年3月15日
消防設備不備修繕
- (16) 平成25年3月29日
常設展示室4面マルチ修繕(ふくしまの文化財映像コーナー)



ふくしまの文化財映像コーナー

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合 計
一般収蔵庫	43,111	3,023	1,032	520	10	47,696
特別収蔵庫	493					493
合計	43,604	3,023	1,032	520	10	48,189

※ 1 一般収蔵庫の収容能力は最大 66,000 箱

※ 2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平 24.4.1 ～ 平 25.3.31	福島県立博物館（常設展示）	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1,478
平 24.4.1 ～ 平 25.3.31	須賀川市立博物館（常設展示）	須賀川市梅田横穴古墳群出土須恵器	1
平 24.4.1 ～ 平 25.3.31	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館（常設展示）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
平 24.4.1 ～ 平 25.3.31	独立行政法人国立科学博物館（常設展示）	飯館村日向南遺跡ほか出土縄文土器	8
平 24.4.17 ～ 平 25.3.31	郡山市教育委員会（大安場史跡公園常設展示）	郡山市弥明遺跡出土石器	5
平 24.4.1 ～ 平 24.12.5	磐梯町慧日寺資料館（テーマ展「縄文文化の十字路・法正 尻遺跡」）	法正尻遺跡出土縄文土器ほか	23
平 24.4.1 ～ 平 24.5.25	福島県立博物館（企画展「小さいのも集まれ」）	会津板下町鬼渡 A 遺跡出土土器ほか	25
平 24.4.1 ～ 平 24.5.25	福島県立博物館（ポイント展「ふるさとの考古資料 2 【会 津美里町】遺跡探訪」）	会津美里町下堀際遺跡出土土器ほか	6
平 24.7.20 ～ 平 24.12.13	栃木県なす風土記の丘資料館（企画展「那須の縄文社会が 変わるころ」）	飯館村上ノ台 A 遺跡出土土器ほか	49
平 24.8.1 ～ 平 24.9.28	郡山市教育委員会（土偶レプリカ作成）	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
平 24.9.4 ～ 平 25.3.6	福島県立博物館（常設ポイント展「相双地方の旧石器」）	新地町三貫地遺跡出土石器	9
平 24.8.29 ～ 平 24.12.21	群馬県岩宿博物館（企画展「人が動く、時代も動くー東日 本の細石器文化を追うー」）	白河市一里段 A 遺跡出土石器ほか	9
平 24.9.28 ～ 平 24.12.18	福島市教育委員会（特別展「縄文時代の物流～物の移動から 見える縄文社会～」）	福島市獅子内遺跡出土縄文土器ほか	3
平 24.10.12 ～ 平 24.3.6	福島県立博物館（ポイント展「新発見！弥生時代の木製品」）	湯川村桜町遺跡出土木製品	3
平 24.10.10 ～ 平 24.12.12	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社（企画展「よみがえっ た正直古墳の主」）	正直 A 遺跡出土土器ほか	341
平 25.1.5 ～ 平 25.3.22	高浜市やきものの里かわら技術館（特別展「みちのくの瓦 ー東北と三州をつなぐもの」）	関和久上町遺跡出土瓦	1
平 24.11.21 ～ 平 25.2.27	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社（身近な遺跡の展 示会「荒小路土偶・思い出の旅」）	郡山市荒小路遺跡出土土偶ほか	49
		合 計	2,014

(2) 模型及びレプリカ

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平 24.4.1 ～ 平 25.3.31	福島県立博物館（常設展示）	梵鐘復元品ほか	10
平 24.4.1 ～ 平 25.3.31	磐梯町磐梯山慧日寺資料館（テーマ展「縄文文化の十字路・ 法正尻遺跡」）	法正尻遺跡復元地形模型ほか	11
平 24.4.1 ～ 平 24.6.12	奈良文化財研究所飛鳥資料館（春期特別展「比羅夫が行く ー飛鳥時代の武器・武具・いくさー」）	多賀城に向かう軍団兵士模型	1
		合 計	22

3. 写真掲載等承認

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平 24.4.5	共同通信社（地震考古学をテーマとした特集記事に使用）	新地町双子遺跡Ⅱ区縄文土器包含層全景 写真ほか	2
平 24.6.11	公益財団法人高輝度光科学研究センター（文化財科学講演会の宣伝用ポスター）	磐梯町法正尻遺跡出土土器写真	1
平 24.7.13	栃木県なす風土記の丘資料館（企画展図録「那須の縄文社会が変わるころ」）	上ノ台 A 遺跡出土縄文土器写真ほか	57
平 24.7.13	岡村勝行（『入門パブリックアーケオロジー』）	展示風景写真 ・ 土器づくり写真	2
平 24.7.13	小野町教育委員会（森と湖に親しむ旬間「こまちダムまつり 2012」における展示パネル）	小野町沢目木遺跡調査区中央～西側全景 写真ほか	35
平 24.8.21	岩宿博物館（企画展図録『人が動く、時代も動くー東日本の細石器文化を追うー』）	一里段 A 遺跡出土石器写真ほか	9
平 24.9.28	福島県立博物館（福島県立博物館ホームページ）	湯川村桜町遺跡出土木製品写真	3

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平24.9.20	有限会社オフィス・イディオム（『学研マンガNEW日本の歴史（全12巻）』）	常設展示「古墳時代ブース」写真	2
平24.10.16	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社（企画展示パネル）	郡山市正直A遺跡発掘作業風景写真ほか	18
平24.10.25	高浜市やきものの里かわら美術館（特別展『みちのくの瓦ー東北と三州をつなぐものー』）	泉崎村関和久上町遺跡出土瓦写真ほか	3
平24.10.25	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社（大安場史跡公園雑誌『まる・さんかく・しかく』）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真ほか	22
平24.10.25	新潟県教育庁文化行政課（越後国行確定1300記念事業 記録集）	弩機（復元模型）写真	1
平24.11.13	株式会社 童夢（『お米なんでも図鑑』ポプラ社）	常設展示「古墳時代の食卓（強飯）」写真ほか	2
平24.11.28	福島県教育会館（2013年度版小学校「夏休みの友」）	下野街道写真（まほろんホームページ内写真）	1
平24.12.20	独立行政法人奈良文化財研究所（『発掘調査の手引き』）	製鉄模型写真ほか	8
平25.1.4	株式会社ジャストシステム（小学生向け通信教育『スマイルゼミ』）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	3
平25.1.28	NHK大阪放送局（『歴史秘話ヒストリア～直江兼続と前田慶次』）	会津若松市神指城跡遺構写真	37
平25.2.1	郡山市教育委員会（ふるさとの郡山の歴史ー中学校『郷土を学ぶ体験学習』資料）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真	1
平25.1.28	(株)アーク・コミュニケーションズ（『地図で知る日本こども図鑑』昭文社）	常設展示「縄文時代の食事」写真ほか	3
平25.2.18	株式会社 悠工房（『社会科資料集 6年』）	銅鏡復元写真	1
平25.2.22	丹治篤嘉（『福大史学 第28号 工藤雅樹先生追悼特集号』）	南相馬市原町区大船迫A遺跡住居跡写真ほか	8
平25.2.22	喜多方市教育委員会（『塩川町史』第1巻「通史編Ⅰ」（原始・古代・中世・近世））	福島市御山千軒遺跡出土馬歯写真ほか	11
平25.3.5	株式会社学研教育出版（文部科学省『学びのイノベーション事業』）	三角縁神獣鏡復元品（裏）	1
平25.3.13	カズ企画（『歴史なるほど新聞』第1巻 ポプラ社）	常設展示「古墳時代の食卓」写真ほか	2
平25.3.15	毎日新聞社（『毎日小学生新聞』）	江平遺跡出土横笛写真	1
		合 計	234

4. 資料閲覧

（1）遺 物

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平4.4.20	東北芸術工科大学（調査研究）	弘法山古墳出土玉類	150
平4.6.29	県外研究者（調査研究）	観音山北横穴群出土鉄製刀ほか	3
平4.6.30	大安場史跡公園職員（企画展の事前調査）	荒小路遺跡出土土偶ほか	13
平24.7.1	県外研究者（調査研究）	法正尻遺跡出土縄文土器ほか	7
平24.8.25.26	県内研究者（調査研究）	関和久遺跡出土瓦ほか	229
平24.9.5	福島市教育委員会職員（企画展の事前調査）	獅子内遺跡出土縄文土器ほか	3
平24.9.6	大安場史跡公園職員（企画展の事前調査）	正直A遺跡出土土師器ほか	1,061
平24.9.7	大安場史跡公園職員（レプリカ作成）	荒小路遺跡出土土偶	1
平24.9.8	県内研究者（調査研究）	馬舟沢A遺跡出土石製模造品	2
平24.9.9	県外研究者（調査研究）	上ノ台A遺跡出土縄文土器ほか	66
平24.9.10	遺跡調査部職員（調査研究）	別所遺跡出土緑釉陶器	1
平24.9.11	福島県文化財センター白河館職員（調査研究）	高木遺跡出土須恵器	1
		合 計	1,537

（2）その他

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平25.2.3	県外研究者（革甲製作の参考調査）	弓を射る軍団兵士模型	1
		合 計	1

4 文化財の活用に関する業務

- 1. 常設展示
 - (1) 構成
 - 1) プロムナードギャラリー
 - ①「展示」(がんばろう！浜通り！)
 - ②「探してみよう福島の文化財」
 - ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)
 - ④「ふくしまの宝物」
 - 2) 常設展示室
 - ①「めぐみの森」
 - ②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
 - ③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉
 - ④「遺跡を掘る」
サブコーナー 〈話題の遺跡〉
 - ⑤「みんなの研究ひろば」
 - ⑥「クイズ福島歴史発見」
 - ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」

- ⑧「しらかわ歴史名場面」
 - ⑨ 映像展示
「ふくしまの文化財ーいのちのかたちー」
- (2) 展示替え
- 平成24年度の展示替えは、下表一覧の通りである。年度当初に、作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業等との関連を持たせた内容とした。

1) 「しらかわ歴史名場面」

しらかわ歴史名場面は、来館者に白河地方の文化財を親しんでもらうため、さらに地域の生涯学習関係者と連携して、各市町村の発掘調査資料を中心に、話題性や地域性のある資料を積極的に掘り起こし、フレキシブルな展示を企画している。本年度は、3つの遺跡について紹介した。

◆白河市南堀切遺跡

縄文時代中期中葉の集落遺跡で、東北地方の大木式土器と関東地方の阿玉台式土器が出土しており、東北と関東地方の交流があったことを物語っている。

常設展示替え一覧

コーナー		タイトル	開催期間	所蔵者	備 考
みんなの研究ひろば	1	まほろんイベント 「古代の鉄づくり」報告	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	館 蔵	平成21年度より継続
		実技講座「古代の鍛冶体験」成果品 (ペーパーナイフ)	平成24年4月1日～ 平成24年3月31日	館及び個人蔵	平成22年度より継続
	2	復元研究の成果（馬具の馬鈴）	平成24年4月1日～ 平成24年9月28日	館 蔵	平成22年度より継続
		学芸員実習の成果（1）	平成24年4月1日～ 平成24年9月28日	館 蔵	小野町沢目木B・堂田A遺跡
話題の遺跡	学芸員実習の成果（2）		平成24年9月29日～ 平成25年3月31日	館 蔵	飯館村羽白C遺跡
	小野町鹿島遺跡		平成24年4月1日～ 平成24年8月20日	館 蔵	
	湯川村桜町遺跡		平成24年8月21日～ 平成24年10月18日	館 蔵	
	相馬市柴迫A遺跡・柴迫遺跡		平成24年10月19日～ 平成25年3月12日	館 蔵	
	新地町山中B遺跡		平成25年3月13日～ 平成25年3月31日	館 蔵	
しらかわ歴史名場面	白河市南堀切遺跡		平成24年4月1日～ 平成24年4月13日	白河市教育委員会	
	白河市管内古墳群		平成24年4月14日～ 平成25年1月11日	館 蔵	
	白河市赤根久保遺跡		平成25年1月12日～ 平成25年3月31日	館 蔵	
プロムナードギャラリー 『ふくしまの宝物』	石川町殿畑遺跡		平成24年4月1日～ 平成25年2月17日	館 蔵	
	南相馬市鳥打沢A遺跡		平成25年2月19日～ 平成25年3月31日	館 蔵	

◆白河市筑内古墳群

白河市（旧東村）に所在する古墳時代の古墳群で、前方後円墳や横穴墓が発見されている。37号横穴墓からは馬具類が発見され、復元研究の結果から当時の輝きが蘇っている。同時に、土師器や須恵器などの出土品を展示した。

◆白河市赤根久保遺跡

白河市（旧東村）に所在する縄文・平安時代の遺跡で、掘立柱建物跡や竪穴住居跡が発見されている。土師器杯には、灯明具に使用されたものと共に、当時としては珍しい墨書土器が多数発見されており、文字の内容から仏教の儀式を行っていたと考えられる。

2)「みんなの研究広場」

みんなの研究広場は、一般県民の歴史や文化財等に関する研究を積極的に紹介することで、県民と歴史・文化財等が近い存在であることを印象付ける特徴的コーナーであり、児童・生徒、教育関係者の調査研究成果を積極的に展示し、併せて当館が行っている実技講座や復元研究の成果も展示した。

◆実技講座「古代の鍛冶体験」の成果品

古代の遺跡から出土した蔵手刀などの鉄製品をモデルとし、古代のモノづくりを体験する企画である。その成果品を「みんなの研究広場」で展示した。

このほかに、まほろんイベント「古代の鉄づくり」・復元研究の成果「いわき市中田横穴出土馬鈴の復元」・学芸員実習の成果などを展示した。

3)「話題の遺跡」

県内の文化財情報を積極的に収集し、話題性に富んだ新鮮な展示を行う。特に企画展の展示内容と関連した企画し、展示室総体が連携するように努めると共に、関係の自治体や生涯学習施設と連携として進めている。

◆小野町鹿島遺跡

中通り南東部に所在する縄文時代・平安時代・鎌倉から室町時代・江戸時代の様々な遺物が出土している。青磁片は中国からの輸入、砥石は京都の鳴滝で生産され、県内には出土例の少ない遺物を紹介した。

◆湯川村桜町遺跡

会津地域の弥生時代後期で、同地域から初めて発見された木製品(高床建物の部材や農耕具・

井戸杵)と出土品を展示した。

◆相馬市柴迫A遺跡・柴迫古墳群

相馬市に所在する弥生時代中期前半の集落や弥生時代中期前半から古墳時代後期にかけての自然流路から発見された出土品を展示した。

◆新地町山中B遺跡

浜通り地方北端の新地町に所在する縄文時代から江戸時代の遺跡です。特に、縄文時代中期初頭の土器は、関東地方の影響を強く受けており、東北南部と関東地方の交流があったことを物語っている。

4)「ふくしまの宝物」

まほろんに所蔵されている出土品の中から、学芸員が紹介する「ふくしまの宝物」である。当館学芸員が交代で、1年間に2回展示替えをした。



ふくしまの宝物「把手付中空円面碗」
南相馬市原町区・鳥打沢A遺跡・飛鳥時代

(3) 展示資料の破損等

◆常設展示

来館者の接触によると思われる展示物(レプリカ)の軽微な破損が見られた。

◆野外展示

経年劣化による展示造形物の床・壁・柱などに生じた隙間やひび割れなどが、増加・拡大をしている。

(4) メンテナンス

破損した屋外展示資料のうち、特に目立つ部分について修繕を行った。修繕箇所および方法は、以下のとおり。

◆室町時代の館

櫓の柱・扉の補修を行い、橋脚の架け替えを行った。

2. 企画展示

(1) 指定文化財展

「ふくしまの重要文化財Ⅸ 三島町荒屋敷遺跡」
会 期：平成24年4月1日(日)～5月20日(日)
(開催日数43日間)

観覧者数：4,937名

1) 趣旨

福島県内の重要文化財を紹介する「ふくしまの重要文化財」シリーズの第9弾として、大沼郡三島町教育委員会が昭和60～63年に行った国道252号線の改良工事に伴う発掘調査によって出土した低湿地遺跡である荒屋敷遺跡の展示である。出土資料のうち、「県指定重要文化財(考古資料)」に指定されている出土品を中心に取り上げ、漆を利用した道具や各種の木製品・繊維製品等から現代に通じる高度な「縄文の匠たちの技」を紹介する展示会とした。

2) 展示の構成と内容

展示では、出土した道具の材料の違いから「木や繊維の道具」、「土や石で作られた道具」、「漆を用いた道具」の3つのコーナーに分けた。

①「木や繊維の道具」では、当時の人々が木の特性をよく理解していたことや、出土した籠が現代と共通した編み方がわかる写真やパネルを展示した。

②「土や石で作られた道具」では、当時の広い交流範囲が伺える土器、祭りや飾り等に使用されたと考えられる様々な道具を展示した。

③「漆を用いた道具」では、櫛や糸玉の漆製品以外に、漆をこした布や赤漆を作る顔料を磨りつぶした石皿、漆を入れた縄文土器などの漆工にかかわる道具を展示した。

3) 関連行事

4月21日(土)、5月3日(木・祝)には、展示を担当した当館学芸員によるギャラリートークを開催した。

4) 成果と反省

今回の展示で、来館者から「縄文時代から漆技術があったことに驚いた」・「縄文時代の籠の編み方が現代のものと全く同じだ」・「遺跡が湿地だったから、腐りやすい道具が残っていたのか」・「縄文時代から受け継がれてきた技術を後世にどのようにして継承したらよいだろうか」といった感想が寄せられ、展示の目的はおおむ

ね達成されたと思われる。

また、展示会が好評であったため、まほろん10周年にあわせて、展示期間を1週間延長した。



「ふくしまの重要文化財Ⅸ 三島町荒屋敷遺跡」

(2) まほろん収蔵資料展

「新編陸奥国風土記巻之十 標葉郡」

会 期：平成24年6月23日(土)～8月26日(日)
(開催日数61日)

観覧者数：5,640名

1) 趣旨

本展示は、例年開催している「新編陸奥国風土記」シリーズの第10回にあたり、古代の「標葉郡」(現在の双葉郡北部に相当)を中心に、浪江町・双葉町・大熊町・楡葉町・富岡町の旧石器時代から江戸時代にかけての遺跡と出土資料について紹介した。

2) 内容

展示の構成および展示資料は以下の通り。また、会期中、展示説明会を3回実施した。

1. 旧石器時代のくらし

楡葉町大谷上ノ原遺跡より出土した後期旧石器時代の石器21点を展示した。

2. 縄文時代のくらし

富岡町の前山A遺跡、楡葉町の馬場前遺跡などから出土した石器および土器40点を展示した。

3. 古代のくらし

楡葉町の鍛冶屋遺跡や小山B遺跡からの出土品28点を展示した。

4. 中近世のくらし

富岡町の上本町F遺跡や浪江町後田A遺跡などから出土した陶磁器などを中心に63点を展示した。

3) 成果と反省

本展示の対象とする地域が、福島原発事故により多大な被害を被った場所であったこともあり、当該地域の出身者および避難者に多くご来場いただいた。展示資料は、いずれも原発事故以前に発掘・収蔵されたものであるが、多くの文化財が現地に取り残されている現状において、当館にて安全に管理・保存されていることを喜ぶ声をいただいた。

なお、これにより、「新編陸奥国風土記」シリーズは県内を一巡し、すべての地域を取りあげたこととなる。



「新編陸奥国風土記巻之十 標葉郡」

(3) ポスター展

「まほろんの歩み」

会 期：平成24年9月15日(土)～9月23日(日)
(開催日数8日間)

観覧者数：744名

1) 趣旨

平成13年から平成24年までにまほろんで実施した企画展示のポスターや各種開催行事写真などを展示して、まほろんの歩みを振り返る展示会である。

2) 展示の構成と内容

①壁面付ハイケース

収蔵資料展「新編陸奥国風土記巻1～10」のポスター展示、代表的な各地域関連の出土資料展示した。

②西側壁面から北側壁面

開館時から10年間の代表的な各種ポスターを年度ごとに展示し、さらに年度ごとのポス

ターに合わせて、現在も継続されているイベント・実技講座・講演会などの写真を展示した。

3) 展示解説会等

期間中、随時展示解説会を行い、まほろんの歩みについて解説を行った。

4) 成果と反省

まほろん開館以来10年間の歩みをポスターで紹介する企画展であった。展示担当学芸員による展示解説会を来館者に対して随時行い、展示やまほろんに対する理解を深めた。

ポスターで見る
まほろんの歩み
平成24年
9月15日(土) ▶ 9月23日(日)

双六大会
平成24年
1月10日(土)
10:00～15:00
参加者
初心者大
まほろん/福島県文化センター白河館

新編陸奥国風土記巻之五
会津郡・耶麻郡
まほろん/福島県文化センター白河館

ふくしま里帰り展
ふくしまの土曜
9月25日(土)～11月28日(日)
まほろん/福島県文化センター白河館

□会場：まほろん特別展示室
□主催 財団法人福島県文化振興事業団

まほろん
福島県文化センター●白河館
〒961-0835 白河市白坂一里路 86
Tel:0246-21-0700 Fax:0246-21-1075
E-mail:office@mahoron.kco.ed.jp
ホームページ しまほろん

利用案内
入館料：無料
利用時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日：平成24年9月18日(火)

交通案内
JR白河駅または、新白河駅から
福島交通バス(まほろん・市民球場・白坂行き)
まほろん下車

「まほろんの歩み」ポスター

(4) ふくしま里帰り展

「ふくしま考古学研究の春暁」

会 期：平成24年10月6日(土)～12月2日(日)
(開催日数50日間)

観覧者数：4,650名

1) 趣旨

「ふくしま里帰り展」は、県外の機関などに所属していて、普段見ることの難しい資料を里帰りさせ展示する企画である。

2) 展示の構成と内容

東北地方縄文土器の科学的研究の緒を成し、大正時代に調査が行われた新地町新地貝塚や三

貫地貝塚出土品、明治時代に調査されて東日本の弥生時代研究の基準となった棚倉町崖ノ上遺跡出土品を里帰りさせて、さらに調査にあたった人物（阿部正功、杉原荘介、神林淳雄、山内清男、八幡一郎など）も紹介して、福島の考古学の科学的研究の始まりについて紹介した。

- ①ふくしま考古学研究の春暁
- ②棚倉式土器の発見
- ③棚倉式土器に関わった人々
阿部正功、神林淳雄、杉原荘介
- ④棚倉式土器の世界
- ⑤新地貝塚の発掘
福島県が初めて主催した発掘調査
- ⑥新地式土器の世界
- ⑦新地貝塚を残した人々の道具
- ⑧88年前の発掘調査記録
山内清男、八幡一郎
- ⑨伝える

特別展示室の中央には、「棚倉遺跡・瓢形土器」や「三貫地貝塚・双口土器」が四方から観覧することができるようにした。



「ふくしま考古学研究の春暁」

ふくしま里帰り展「ふくしま考古学研究の春暁」展示資料一覧

No	資料名	点数	所蔵者
1	史蹟名勝天然記念物調査報告第一稿	1	福島県立図書館
2	序文	1	同
3	小川貝塚（新地貝塚）の記録	1	同
4	崖ノ上遺跡出土瓢形土器	1	東京大学総合研究博物館
5	弥生土器壺	1	個人
6	オオバコノ穂で文様を付けた弥生土器壺	1	東京大学総合研究博物館
7	底部に木葉圧痕がある大型壺	1	同
8	同	1	同
9	阿部正功の肖像	1	白河市歴史民俗資料館
10	崖ノ上遺跡から弥生土器が発見された時の記録	1	学習院大学史料館
11	同	1	同
12	棚倉紀行（阿部正功著）	1	同
13	崖ノ上遺跡地形図（鉛筆スケッチ 阿部正功作）	1	同
14	崖ノ上遺跡・棚倉町周辺地形図（阿部正功作）	1	同
15	白河市寒晒山から出土した石器実測図（阿部正功作）	1	同
16	同	1	同
17	玉川村上代から出土した土器・石器の記録（阿部正功作）	1	同
18	同	1	同
19	同	1	同
20	同	1	同
21	同	1	同
22	同	1	同
23	玉川村の小林房三から石器を寄贈したい旨の手紙	1	同
24	玉川村上代A遺跡出土縄文土器	1	当館蔵
25	神林淳雄の遺作『土の文化』	1	個人
26	『土の文化』の崖ノ上遺跡の記述	1	同
27	杉原荘介が発掘した縄文土器・土偶	16	明治大学博物館
28	杉原荘介が発掘した石器・玉類など	23	同
29	昭和14年の崖ノ上遺跡の景観（北西から）	1	同
30	杉原荘介の崖ノ上遺跡調査記録	2	同
31	神林淳雄から杉原荘介への手紙と同封写真	1	同
32	杉原荘介・阿部正功の発掘調査箇所的位置	1	同
33	角田千里所蔵の崖ノ上遺跡出土石器類実測図	1	同
34	中平遺跡出土瓢形土器	1	当館蔵
35	上岡遺跡出土土器	1	福島市教育委員会
36	御代田遺跡出土土器	1	個人
37	油田遺跡出土土器	1	会津美里町教育委員会
38	下高野遺跡出土土器	1	大玉村教育委員会
39	滝ノ森B遺跡出土土器壺	10	白河市教育委員会
40	滝ノ森B遺跡出土土器	1	同
41	同	1	同
42	滝ノ森B遺跡出土土器壺	1	同
43	同	1	同

No	資料名	点数	所蔵者
44	鳥内遺跡出土土器	1	石川町教育委員会
45	鳥内遺跡出土土器	1	同
46	同	1	同
47	同	1	同
48	同	1	同
49	薮ノ内A遺跡出土土器	1	須賀川市教育委員会
50	同	1	同
51	同	1	同
52	薮ノ内A遺跡出土土器	1	同
53	薮ノ内A遺跡出土土器	1	同
54	油田遺跡出土土器	1	会津美里町教育委員会
55	油田遺跡出土土器	1	同
56	同	1	同
57	奥羽観蹟聞老志	1	福島県立図書館
58	磐城国小川貝塚調査概観（大正14年作成）	1	複写本 個人
59	山内清男執筆小川貝塚原稿	1	岡谷考古美術館
60	八幡一郎肖像	1	同
61	八幡一郎の小川貝塚調査日誌	1	同
62	八幡一郎の小川貝塚調査野帳	1	同
63	八幡一郎の加曾利貝塚調査日誌	1	同
64	新地貝塚全体図（八幡一郎作成）	1	同
65	新地貝塚出土注口土器	1	東京大学総合研究博物館
66	同	1	同
67	新地貝塚出土土器	1	同
68	新地貝塚出土注口土器	1	同
69	新地貝塚出土土器	1	同
70	新地貝塚出土注口土器	1	同
71	新地貝塚出土土器	1	同
72	三貫地貝塚出土注口土器	1	同
73	三貫地貝塚出土土器	1	同
74	新地貝塚出土土器	14	同
75	新地貝塚出土土器	1	同
76	新地貝塚出土土器	1	同
77	新地貝塚出土土器	20	同
78	新地貝塚出土土器	6	同
79	新地貝塚出土土器	3	同
80	骨角器写真	1	岡谷美術考古館
81	八幡一郎作成骨角器実測図	6	同
82	三貫地貝塚出土土器	1	福島県立相馬高校
83	三貫地貝塚出土注口土器	1	同
84	三貫地貝塚出土土器	1	東京大学総合研究博物館
85	三貫地貝塚出土土器	1	同

3) 関連文化財講演会

10月7日(日)には、文化財講演会「阿部正功の生涯と学問—人類学・土俗学・考古学—」を実施し、阿部家の資料を保管・研究している学習院大学史料館学芸員により、阿部正功の生涯と学問についての解説を行った。

また、12月22日(土)・1月19日(土)・1月26日(土)・2月9日(土)には、展示を担当した当館学芸員による展示解説会を開催した。

4) 成果と反省

本企画展期間中の入館者総数は4,650名、一日平均入館者は93名である。

また、当館学芸員による展示解説会を定期的に行い、来館者に対する展示に対する理解を深めた。

(6) 指定文化財展

「ふくしまの重要文化財Ⅹ 福島市和台遺跡」
会 期:平成24年12月22日(土)～2月17日(日)
(開催日数43日間)

観覧者数:2,328名

1) 趣旨

福島県内の重要文化財を紹介する「ふくしまの重要文化財」シリーズの第10弾である。福島市(旧伊達郡飯野町)教育委員会が平成9～11年に行った県道39号川俣安達線の改良工事に伴う発掘調査によって発見された、縄文時代中期から後期前半期の集落遺跡である和台遺跡の展示である。出土資料のうち、「県指定重要文化財(考古資料)」に指定されている人体文土器や狩猟文土器を中心に上げ、集落の様子や縄文人の土地利用法などから、当地域の代表的な集落の姿を紹介する展示会とした。

2) 展示の構成と内容

縄文時代中期を中心として栄えた和台遺跡のムラの移り変わりに焦点をあて、周辺地域との関わりを紹介した。

また、特別展示室の中央には、「県指定重要文化財(考古資料)」に指定されている人体文土器や狩猟文土器が四方から観覧することができるようにした。

①プロローグ

②大河を望む大地のくらし

③ムラの生活

④ムラのまつり

⑤周辺地域の出土品(まほろん所蔵)

⑥エピローグ

奥壁には、福島市和台遺跡の航空写真と集落を拡大し、時期別に表示して、集落の変遷が分かりやすいように展示した。

3) 関連文化財講演会

1月26日(土)には、文化財講演会「福島市和台遺跡の世界」を実施し、和台遺跡の整理を担当した福島市(当時飯野町)教育委員会職員により、遺跡の概要や出土した土器の特徴についての解説がなされた。

また、12月22日(土)・1月19日(土)・1月26日(土)・2月9日(土)には、展示を担当した当館学芸員による展示解説会を開催した。



「ふくしまの重要文化財Ⅹ 福島市和台遺跡」

4) 成果と反省

調査に携わった福島市(当時飯野町)教育委員会職員による文化財講演会、展示担当学芸員による展示解説会を定期的に行い、来館者に対する展示に対する理解を深めた。

また、航空写真や図表を拡大し、高齢の方々にも分かりやすい展示に心がけ、来館者からは好評であった。

(6) 文化財復興展

「救出された双葉郡の文化財Ⅰ」

会 期:平成25年3月7日(木)～3月31日(日)
(開催日数20日間)

観覧者数:1,419名

1) 趣旨

福島県教育委員会が実施している「被災ミュ

ージアム再興事業」は、東日本大震災で被災し、原発事故の影響により警戒区域に取り残された浜通り地方の双葉町、大熊町、富岡町の各資料館内の文化財を救出して、福島県文化財センター白河館の仮保管施設に保管し、展示公開する事業である。この事業により救出された3町の考古・民俗資料、古文書などの歴史資料を展示公開して、広く県民に警戒区域内の歴史や文化を伝えて復興を祈念する企画を行った。

2) 展示の構成と内容

①プロローグ

②双葉町の救出文化財

双葉町を代表する清戸迫横穴群や郡山五番遺跡の出土品、斎藤家の寄託品の漆製品を展示した。

③大熊町の救出文化財

縄文時代の砂出遺跡や道平遺跡の出土品、大堀相馬焼の大皿・徳利、昭和初期の鋺（こて）や炭火アイロン、版木や仏像などを展示した。

④富岡町の救出文化財

縄文時代の関根遺跡や弥生時代の毛萱遺跡、古墳時代の小浜代遺跡及び古墳群の出土品、多古藩（現在の千葉県）の陣屋図や掛け軸を展示した。

文化財復興展「救出された双葉郡の文化財Ⅰ」展示資料一覧

No	資料名	時代	所蔵者
1	土師器杯（清戸迫60号横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
2	土師器杯（清戸迫61号横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
3	須恵器はそう（清戸迫30号横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
4	須恵器長頸瓶（清戸迫31号横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
5	須恵器大甕（清戸迫33号横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
6	勾玉（清戸迫横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
7	勾玉（清戸迫横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
8	勾玉（清戸迫横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
9	勾玉（清戸迫横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
10	勾玉（清戸迫横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
11	勾玉（清戸迫横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
12	勾玉（清戸迫横穴墓）	古墳時代後期	双葉町歴史民俗資料館
13	軒丸瓦（郡山五番遺跡）	奈良時代	双葉町歴史民俗資料館
14	軒丸瓦（郡山五番遺跡）	奈良時代	双葉町歴史民俗資料館
15	土師器高坏（郡山五番遺跡）	奈良時代	双葉町歴史民俗資料館
16	土師器甕（郡山五番遺跡）	奈良時代	双葉町歴史民俗資料館
17	土師器甕（郡山五番遺跡）	奈良時代	双葉町歴史民俗資料館
18	馬具 鎧（斎藤家資料）	近世～近代	双葉町歴史民俗資料館寄託
19	馬具 鞍（斎藤家資料）	近世～近代	双葉町歴史民俗資料館寄託
20	法螺貝（斎藤家資料）	近世～近代	双葉町歴史民俗資料館寄託
21	煙草盆（斎藤家資料）	近世～近代	双葉町歴史民俗資料館寄託
22	短冊入れ（斎藤家資料）	近世～近代	双葉町歴史民俗資料館寄託
23	縄文土器浅鉢（砂出遺跡）	縄文時代中期	大熊町民俗伝承館
24	縄文土器有孔無頸小壺（道平遺跡）	縄文時代中期	大熊町民俗伝承館
25	縄文土器浅鉢（道平遺跡）	縄文時代晩期	大熊町民俗伝承館
26	縄文土器小壺（砂出遺跡）	縄文時代晩期	大熊町民俗伝承館
27	縄文土器鉢（道平遺跡）	縄文時代晩期	大熊町民俗伝承館
28	縄文土器注口土器（道平遺跡）	縄文時代晩期	大熊町民俗伝承館
29	大堀相馬焼 大皿	19世紀	大熊町民俗伝承館
30	大堀相馬焼 徳利	19世紀	大熊町民俗伝承館



「救出された双葉郡の文化財Ⅰ」

⑤エピローグ

3) 関連文化財講演会

3月7日（木）には、展示を担当した当館学芸員による展示解説会を開催した。

4) 成果と反省

各地に避難している方々が展示の見学に訪れ、ふるさとを懐かしみ、涙ぐむ来館者もおられた。

また、地形図や図表を拡大し、高齢の方々にも分かりやすい展示に心がけ、来館者からは好評であった。

No	資料名	時代	所蔵者
31	陶器 徳利	19世紀	大熊町民俗伝承館
32	鋺（こて）	昭和初期	大熊町民俗伝承館
33	炭火アイロン	昭和初期	大熊町民俗伝承館
34	炭火アイロン	昭和初期	大熊町民俗伝承館
35	棹 秤	昭和初期	大熊町民俗伝承館
36	版 木 大黒天	時期不明	大熊町民俗伝承館
37	版 木 不動明王	時期不明	大熊町民俗伝承館
38	版 木 十三仏	時期不明	大熊町民俗伝承館
39	仏 像	時期不明	大熊町民俗伝承館
40	多古藩陣屋図	江戸時代	富岡町歴史民俗資料館
41	下総国多古藩領主源勝行公之御筆拝領富士越龍	江戸時代	富岡町歴史民俗資料館
42	寛保三年八月富岡組下郡山村亥改高帳	江戸時代	富岡町歴史民俗資料館
43	差上中鉄砲証文之事	江戸時代	富岡町歴史民俗資料館
44	合戦図	江戸時代	富岡町歴史民俗資料館
45	下郡山村戸長役場通達	明治時代	富岡町歴史民俗資料館
46	縄文土器壺型土器（関根遺跡）	縄文時代晩期	富岡町歴史民俗資料館
47	縄文土器注口土器（関根遺跡）	縄文時代晩期	富岡町歴史民俗資料館
48	縄文土器注口土器（関根遺跡）	縄文時代晩期	富岡町歴史民俗資料館
49	縄文土器浅鉢形土器（関根遺跡）	縄文時代晩期	富岡町歴史民俗資料館
50	縄文土器浅鉢形土器（関根遺跡）	縄文時代晩期	富岡町歴史民俗資料館
51	土 偶（毛萱遺跡）	弥生時代中期	富岡町歴史民俗資料館
52	石製模造品（小浜古墳）	古墳時代中期	富岡町歴史民俗資料館
53	平 玉（小浜古墳）	古墳時代中期	富岡町歴史民俗資料館
54	軒丸瓦（小浜代遺跡）	奈良時代	富岡町歴史民俗資料館
55	軒丸瓦（小浜代遺跡）	奈良時代	富岡町歴史民俗資料館
56	軒平瓦（小浜代遺跡）	奈良時代	富岡町歴史民俗資料館
57	軒平瓦（小浜代遺跡）	奈良時代	富岡町歴史民俗資料館
58	平瓦（小浜代遺跡）	奈良時代	富岡町歴史民俗資料館
59	平瓦（小浜代遺跡）	奈良時代	富岡町歴史民俗資料館

3. 講演会等

(1) 館長講演会

平成24年度は、昨年度に引き続き「歴史は知恵の森」をテーマとして5回の館長講演会を開催した。

シリーズ【歴史は知恵の森】

- ・平成24年5月20日（日）
第1回「縄文文化を世界遺産に」25名
- ・平成24年7月21日（土）
第2回「世界遺産の基礎知識（1）」29名
- ・平成24年9月30日（日）
第3回「世界遺産の基礎知識（2）」28名
- ・平成24年11月17日（土）
第4回「海外の世界遺産」23名
- ・平成25年1月19日（土）
第5回「日本の世界遺産」18名

(2) 文化財講演会

企画展などに関連させ、今年度は以下の講演会を実施した。

- ①「被災地の無形の民俗の現状と課題」をテーマとして、福島県文化財保護審議会委員の懸田弘訓氏が講演を行った。
 - ・実施日：平成24年5月12日（土）
 - ・参加者：28名
- ②「自然災害と縄文人」をテーマとして、東北芸術工科大学東北文化研究センター教授の安斎正人氏が講演を行った。
 - ・実施日：平成24年6月17日（日）
 - ・参加者：26名
- ③「鹿嶋神社の歴史と祭り」をテーマとして、当館運営協議会委員の和知延氏が講演を行った。

- ・実施日：平成24年8月26日（日）
- ・参加者：42名
- ④「棚倉藩最後の殿様 阿部正功の生涯と学問」をテーマとして、学習院大学史料館学芸員の丸山美季氏が講演を行った。
 - ・実施日：平成24年10月7日（日）
 - ・参加者：61名
- ⑤「後世に伝える福島の郷土食」をテーマとして、当館運営協議会委員の平出美穂子氏が講演を行った。
 - ・実施日：平成24年11月23日（金・祝）
 - ・参加者：14名
- ⑥「福島市和台遺跡の世界」をテーマとして、福島市教育委員会文化財課主査の新井達哉氏が講演を行った。
 - ・実施日：平成25年1月26日（土）
 - ・参加者：27名

(3) 文化財に関する上映会

文化財に関する上映会は、以下の2回にわたり、文化財記録ビデオの上映及び当館学芸員の説明を実施した。

- ①「被災地の民俗文化」
 - ・実施日：平成24年5月26日（土）
 - ・参加者：29名
 - ・会場：福島県男女共生センター（二本松市）
- ②「日本の手仕事」
 - ・実施日：平成25年2月9日（土）
 - ・参加者：7名
 - ・会場：福島県文化財センター白河館

文化財講演会状況

名 称	講 師	実施日	受講者数	場 所
館長講演会 第1回「歴史は知恵の森 縄文文化を世界遺産に」	菊池徹夫館長	5月20日	25名	まぼろん講堂
館長講演会 第2回「歴史は知恵の森 世界遺産の基礎知識（1）」	菊池徹夫館長	7月21日	29名	まぼろん講堂
館長講演会 第3回「歴史は知恵の森 世界遺産の基礎知識（2）」	菊池徹夫館長	9月30日	28名	まぼろん講堂
館長講演会 第4回「歴史は知恵の森 海外の世界遺産」	菊池徹夫館長	11月17日	23名	まぼろん講堂
館長講演会 第5回「歴史は知恵の森 日本の世界遺産」	菊池徹夫館長	1月19日	18名	まぼろん講堂
「被災地の無形の民俗の現状と課題」	懸田 弘訓（福島県文化財保護審議会委員）	5月12日	28名	まぼろん講堂
「自然災害と縄文人」	安斎 正人（東北芸術工科大学教授）	6月17日	26名	まぼろん講堂
「鹿嶋神社の歴史と祭り」	和知 延（白河鹿嶋神社宮司 当館運営協議会委員）	8月26日	42名	まぼろん講堂
「阿部正功の生涯と学問」	丸山 美季（学習院大学史料館学芸員）	10月7日	61名	まぼろん講堂
「後世に伝える福島の郷土食」	平出美穂子（当館運営協議会委員）	11月23日	14名	まぼろん講堂
「福島市和台遺跡の世界」	新井達哉（福島市教育委員会文化課 主査）	1月26日	27名	まぼろん講堂
文化財ビデオ上映会「被災地の民俗文化」	大山孝正（当館主任学芸員）	5月26日	29名	二本松市
文化財ビデオ上映会「日本の手仕事」	菅原祥夫（当館専門学芸員）	2月9日	7名	まぼろん講堂

4. 体験学習

(1) 常時体験型メニュー

1) 体験活動室メニュー

体験活動室において実施する、個人来館者を対象とした体験学習メニューである。

昨年度までの実施状況を踏まえて、季節や当館の行事予定を考慮して年間計画を作成し、通年体験できる「勾玉・管玉づくり」や「火おこしに挑戦しよう」に、2週間で入れ替わる14種類の期間限定メニューを組み合わせで実施した。

今年度の体験者数は7,506名となり、過去11年間の平均体験者数よりも約2,200名増加した。これは、体験者数が例年多いメニューを複数回行ったことや、新しいメニューの導入も要因に挙げられる。



体験活動室メニュー「ガラス玉をつくろう」

体験活動室メニューの実施状況

内 容	参加人数	内 容	参加人数
勾玉づくり	2,031名	ミニチュア埴輪をつくろう	102名
管玉づくり	62名	七夕飾りをつくろう	81名
火おこしに挑戦してみよう	3,361名	獣脚ろうそくをつくろう	4名
ガラス玉をつくろう	179名	昔の遊び	532名
匂い袋をつくろう	41名	切り絵に挑戦しよう	49名
時代衣装を着てみよう	747名	和紙でつるし雛を折ろう	37名
ミニチュア土器づくり	50名	拓本に挑戦しよう	46名
組みひもをつくろう	140名	ミニチュア土偶・土面・	33名
アンギン編みに挑戦しよう	11名	耳飾りをつくろう	

2) 臨時の個人来館者対応の体験メニュー

ゴールデンウィークや小中学校の夏休み期間、まほろんイベントの実施日、特別展示期間において、体験活動室メニューに加えて、個人来館者向けの体験メニューを実施した。

臨時の個人来館者対応体験メニューの実施状況

内 容	参加人数	内 容	参加人数
弓矢・やり投げ	1,831名	わたあめ	170名
バックヤードツアー	668名	缶バッジ	200名
紙かぶと	44名	土器さわり	157名
昔の遊び	73名	砂鉄選別	498名

3) 団体来館者対応の体験メニュー

事前予約の団体来館者に対し、勾玉づくり、火おこし、土器さわりなど8メニューを実施した。

(2) 募集型体験メニュー

1) 実技講座

昔のさまざまな“モノづくり”を体験することで、文化財に対する理解を深めることを目的として実施した。

平成24年度は、5月の「家族で土笛・土鈴をつくろう」を皮切りに、13講座19回について実施した。なお実技講座の名称、日程、参加者数は別表のとおりである。

各講座の定数は10～20名で、家族を対象としたものでは10組となっている。「家族で門松をつくろう」「縄文土器づくり上級編」などは定数を応募人数が上回った。

実技講座実施状況

	講座名	実施日	参加者数
1	家族で土笛・土鈴をつくろう	5月12日	13名
2	家族でお茶わんをつくろう①	6月9日	26名
3	カラムシから布をつくろう①	6月30日	14名
4	家族でお茶わんをつくろう②	7月14日	26名
5	カラムシから布をつくろう②	7月21日	12名
6	古代の染色にちょうせん	8月4日	10名
7	カラムシから布をつくろう③	9月1日	14名
8	鹿の角で釣り針をつくろう①	9月15日	11名
9	鹿の角で釣り針をつくろう②	9月16日	11名
10	家族で縄文クッキーをつくろう	10月13日	8名
11	縄文土器づくり初級編	11月17日	13名
12	古代の印章をつくろう	12月15日	14名
13	家族で凧をつくろう	12月22日	14名
14	家族で門松をつくろう	12月23日	41名
15	古銭をつくろう	1月26日	7名
16	縄文土器づくり上級編①	2月9日	13名
17	縄文土器づくり上級編②	2月10日	13名
18	ひょうたんから容器をつくろう	2月23日	16名
19	縄文土器づくり上級編③	3月9日	13名

2) まほろんイベント

当館の業務や文化財に関心を持ってもらうことで、新たな地域・年齢層を開拓し、さらなる来館者増を目指すために実施した。

①まほろん夏まつり

古代3種（火おこし、弓矢、槍投げ）競技、すり染め、かき氷づくりなどを実施した。

②まほろんを描こう

まほろんの様々な施設や展示物を題材として、参加者に絵画を描いてもらった。作品は来館者の投票により優秀作品を決定し、表彰した。

③古代の鉄づくり

粘土で作った製鉄炉に砂鉄や木炭を投入する村下体験者、炉に風を送る踏みふいごを踏む番子さんを募集し、古代の鉄づくりに挑戦した。



古代の鉄づくり

④まほろんもちつき大会

県南地区の餅つき唄にあわせて千本杵による餅つき体験を行った。体験者には試食用の餅を振る舞った。また、子供映画会や昭和の遊びなども行った。

なお、当日は「アクアマリンから移動水族館がやってくる！」も実施した。



まほろんもちつき大会

⑤第9回双六大会

盤双六を用いて、トーナメント方式の大会を実施した。

⑥まほろん冬まつり

火おこしタイムトライアル、昔の遊び、カルメ焼き体験、紙兜づくりなどを実施した。併せて、「福島県立図書館の移動図書館あづま号がやって来る！」も実施した。

まほろんイベント実施状況

	講座名	実施日	参加者数
1	GWまほろんまつり	5月3日～6日	1,330名
2	まほろん夏まつり	7月29日	325名
3	まほろんを描こう	9月15日～17日	39名
4	古代の鉄づくり	11月3日～4日	346名
5	もちつき大会	12月2日	840名
6	第8回 双六大会	1月12日	20名
7	まほろん冬まつり	2月17日	586名

3) まほろん森の塾

塾生（小学5・6年生、中学生から募集）が、年間を通じて昔の暮らし・技術について体験することで、自らが生きる力をわかりやすく、親しみやすく身につけることを目的として実施した。平成24年度は9名が登録し、「古代の生活を体験」をテーマに6回実施した。

まほろん森の塾実施状況

	講座名	実施日	参加者数
1	結団式、土笛づくり	5月20日	9名
2	縄文土器づくり	6月23日	8名
3	縄文時代の家で暮らそう	9月15日	6名
4	縄文クッキーをつくろう	10月13日	3名
5	古代の鉄づくり	11月3日	9名
6	解団式、凧づくり	12月22日	7名



まほろん森の塾

(3) 館外体験学習支援事業

本事業は、県内の学校や公民館などの生涯学習施設における体験学習を支援することを目的とし、当館職員が会場となる施設へ出向いて(ただし、「ネットであまほろん」を除く)、地域の歴

史を伝え、体験活動を行なう。体験したメニューは、勾玉づくり、火おこし体験、弓矢体験、土器づくりなどである。

以下、本事業の各プログラムの概要と平成24年度の成果について述べる。

おでかけまほろん

No.	団 体 名	学年・科目	体 験 内 容	実施日	人数
1	下郷町立橘原小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	4月12日(木)	24名
2	下郷町立江川小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	4月12日(木)	5名
3	郡山市立守山小学校	6年、社会	土器さわり・弓矢	4月18日(水)	57名
4	郡山市立大槻小学校	6年、社会	勾玉づくり・土器さわり・火おこし・弓矢	4月19日(木)	104名
5	喜多方市立山都小学校	6年、社会	土器さわり・弓矢	4月24日(火)	17名
6	三春町立沢石小学校	6年、社会	土器さわり・弓矢・時代衣装着用	4月25日(水)	18名
7	郡山市立富田小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし	4月26日(木)	97名
8	会津坂下町市立坂下小学校	6年、社会	勾玉づくり・土器さわり・火おこし・弓矢	4月27日(金)	107名
9	伊達市立月館小学校	5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	5月2日(水)	50名
10	福島市立中野小学校	5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	5月8日(火)	11名
11	須賀川市立大森小学校	5・6年、社会	土器さわり・弓矢	5月15日(火)	31名
12	郡山市立桃見台小学校	6年、社会・総合	勾玉づくり・土器さわり	5月16日(水)	60名
13	郡山市立御館小学校	6年、社会	火おこし・弓矢	5月16日(水)	49名
14	須賀川市立西袋第二小学校	4～6年、社会・総合	勾玉づくり・土器さわり・火おこし・弓矢	5月22日(火)	43名
15	西郷村立川谷小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢・時代衣装着用	5月25日(金)	6名
16	本宮市立本宮小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし	5月30日(水)	63名
17	二本松市立原瀬小学校	6年、社会・総合	勾玉づくり・火おこし・弓矢	5月31日(木)	15名
18	郡山市立海老根小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし	6月6日(水)	6名
19	桑折町立釼芳小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	6月8日(金)	44名
20	伊達市立大石小学校	5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	6月13日(水)	17名
21	須賀川市立白江小学校	4～6年、社会・総合	土器さわり・火おこし・弓矢	6月15日(金)	74名
22	田村市古道小学校	6年、社会	土器さわり	6月20日(水)	8名
23	田村市岩井沢小学校	6年、社会	土器さわり	6月20日(水)	5名
24	会津若松市立門田小学校	5年、社会	勾玉づくり・土器さわり・火おこし	6月22日(金)	92名
25	昭和村立昭和小学校	6年、社会	火おこし・弓矢	6月28日(木)	10名
26	郡山市立東芳小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし	7月3日(火)	17名
27	郡山市立高野小学校	6年、社会	土器さわり	7月5日(木)	14名
28	新地町立福田小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	8月30日(木)	18名
29	伊達市立小国小学校	全学年、生活・総合・社会	勾玉づくり・土器さわり・火おこし・弓矢	8月31日(金)	44名
30	郡山市立喜久田小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし	9月4日(火)	60名
31	田村市立船引小学校	6年、総合	勾玉づくり・土器さわり・弓矢	9月6日(木)	133名
32	福島市立土湯小学校	3～5年、総合	勾玉づくり	9月7日(金)	7名
33	福島市立余目小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	9月19日(水)	29名
34	田村市立菅谷小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	9月28日(金)	12名
35	いわき市立高野小学校	6年、社会	土器さわり・弓矢	10月2日(火)	17名
36	三春町立中妻小学校	5・6年、社会	火おこし・弓矢	10月4日(木)	22名
37	本宮市立白岩小学校	6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	10月16日(火)	34名
38	伊達市立伊達東小学校	6年、社会	勾玉づくり・土器さわり・火おこし	10月17日(水)	29名
39	伊達市立栗野小学校	5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	10月23日(火)	42名
40	喜多方市立熊倉小学校	6年、社会	火おこし	12月5日(水)	16名

出前講座

No.	団 体 名	学年・年齢	体 験 内 容	実施日	人数
1	須賀川市小塩江公民館	70歳前後	土器さわり	5月10日(木)	17名
2	郡山市片平公民館	60歳以上	組紐・時代衣装着用	6月14日(木)	26名
3	石川町母畑自治センター	40～80歳	勾玉づくり・土器さわり・火おこし	6月24日(日)	14名
4	二本松中央公民館	小4～6年生	火おこし・弓矢	7月7日(土)	16名
5	柳津中央公民館	小1～6年生	勾玉づくり・土器さわり・弓矢	7月25日(水)	49名
6	平田村中央公民館	小1～6年生(親子)	勾玉づくり・弓矢	8月5日(日)	25名
7	須賀川市小塩江公民館	70歳前後	土器さわり	10月12日(金)	13名
8	会津若松市北公民館	小1～6年生(親子)	勾玉づくり・土器さわり	2月24日(日)	25名

まるとまほろん

No.	団 体 名	学年・年齢	体 験 内 容	実施日	人数
1	表郷祭り	小学生・一般	土器さわり・缶バッジづくり	9月22日(土)	153名
2	国立那須甲子青少年自然の家	小学生・一般	土器さわり・ミニはにわづくり	9月23日(日)	291名
3	白河関の森公園	小学生・一般	土器さわり・缶バッジづくり	10月20・21日(土・日)	200名
4	国立磐梯青少年交流の家	小学生・一般	土器さわり・ミニはにわづくり	10月21日(日)	130名
5	大玉村あだたらふるさとホール	小学生・一般	土器さわり・火おこし・弓矢	10月27・28日(土・日)	514名

1) おでかけまほろん

小中学校などの教育機関を対象としたプログラムで、学校の先生と当館職員が連携して授業を行い、学校周辺の歴史を伝え、さらに各種の体験活動を行うものである。平成24年度は、別掲の40校で実施した。

2) まほろん出前講座

公民館などの生涯学習施設における「子供クラブ」や「高齢者学級」などを対象としたプログラム。本年度は、郡山市・須賀川市・二本松市・会津若松市・石川町・柳津町・平田村の各公民館など8箇所で開催した。

3) まるごとまほろん

地域住民を対象として、その地域で発掘された考古資料の展示や体験学習などを行うプログラム。本年度は、国立那須甲子青少年自然の家や大玉村あだたらふるさとホールなどで主催したイベントに参加した。

4) ネットでまほろん

遠隔地の学校や障がいを持っているため来館での活動が困難な学校を対象としたプログラムで、当館と会場をインターネット回線によるテレビ電話で結び、授業を行なう。今年度は申し込みがなかった。

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

4月からのアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は41,551件で、東日本大震災の影響で減少した平成23年度より1,316件(3.3%)増加したが、平成22年度(46,550件)には及ばなかった。

なお、平成13年7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、年度末の時点で50万件の大台まで、あと少しとなった。

2. データベースによる情報提供

(1) アクセス数の推移

平成24年度のアクセス数を下表に示した。文化財データベースの年間アクセス数は324,906件で、東日本大震災の影響で大きく減少した平成23年度より約43,000件(15.2%)増加した。しかし、やはり平成22年度(427,934件)には

及ばなかった。

その内訳を見ると、遺跡データベースと遺物データベースがそれぞれ15万件、10万件を超えており、特にアクセスの頻度が高い。

月別のアクセス件数を見ると、8・9・1・3月で3万件を超えており、年間を通じて安定したアクセスがあった。

ホームページアクセス数一覧

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	3,829	455,554
5月	4,396	459,950
6月	3,986	463,936
7月	3,667	467,603
8月	3,982	471,585
9月	3,100	474,685
10月	3,146	477,831
11月	3,234	481,065
12月	2,541	483,606
1月	3,264	486,870
2月	2,974	489,844
3月	3,432	493,276
合計	41,551	

データベースアクセス数一覧

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	写真	文献
4月	18,164	6,972	7,917	2,029	1,246
5月	22,174	8,100	8,068	1,311	4,695
6月	26,579	14,816	5,711	1,229	4,823
7月	27,645	16,985	6,771	1,086	2,803
8月	30,542	21,142	5,345	1,126	2,929
9月	31,938	16,121	10,384	1,204	4,229
10月	24,357	15,091	5,260	1,071	2,935
11月	25,309	10,740	9,925	1,708	2,936
12月	25,316	8,963	10,263	1,833	4,257
1月	33,320	12,674	12,534	1,993	6,119
2月	29,320	10,701	11,137	1,624	5,858
3月	30,242	10,011	12,766	1,970	5,495
合計	324,906	152,316	106,081	18,184	48,325

(2) データの入力

平成23年度に遺跡調査部の文化財センター整備担当で作成されたデータ、及び、当館で作成した「文献データベース」、当館で撮影した遺物写真の入力を行った。新規入力数(テキスト)を別表として示したが、合計入力数は7,126件となっている。

データ入力一覧

種類	入力数	削除数	累計
遺跡（基本データ）	15		13,835
遺跡（調査台帳）	123		4,307
遺物	3,959		251,374
遺物写真	1,423		20,245
写真	1,100		55,511
文献	506		17,506
合 計	7,126	0	362,778

3. まほろん通信の発行

平成24年度は、年4回発行した。発行日は、4月15日、7月1日、10月1日、1月15日で、各4,000部を発行した。概要は、以下のとおりとなっている。

(1) まほろん通信 vol.43（4月15日発行）

- ・新年度を迎えて
- ・企画展示案内（指定文化財展「ふくしまの重要文化財Ⅸ 三島町荒屋敷遺跡」）
- ・まほろん冬まつりの様子
- ・文化財研修のご案内（4～6月の研修）
- ・平成23年度の入館者数
- ・まほろんからのお知らせ（5月のまほろんイベント）
- ・今年度の行事予定

(2) まほろん通信 vol.44（7月1日発行）

- ・開館10周年記念事業
- ・体験学習（実技講座「家族で土笛・土鈴をつくろう」・「まほろん森の塾」）
- ・夏のまほろん（イベント「まほろん夏まつり」）
- ・企画展示案内（収蔵資料展「新編陸奥国風土記巻之十 標葉郡」）
- ・館長講演会と文化財講演会のご案内
- ・文化財研修のご案内（7～9月の研修）
- ・シリーズ収蔵品紹介13（法正尻遺跡出土の縄文土器）
- ・まほろんからのお知らせ（夏休みは無休です）

(3) まほろん通信 vol.45（10月1日発行）

- ・まほろんの夏休み体験活動
- ・「古代の鉄づくり」のご案内
- ・体験学習（実技講座「カラムシから布をつくろう」・実技講座「古代の染色にちょうせん」）
- ・企画展示案内（ふくしま里帰り展「ふくしま

考古学研究の春暁―棚倉式土器の発見・新地貝塚の発掘―」

- ・研修だより（教職員発掘調査体験研修）
- ・文化財研修のご案内（10～12月の研修）
- ・シリーズ収蔵品紹介14
- ・まほろんからのお知らせ（獣脚ろうそくがつくれます）

(3) まほろん通信 vol.46（1月15日発行）

- ・イベント「古代の鉄づくり」
- ・体験学習（実技講座「家族で縄文クッキーをつくろう」・実技講座「縄文土器づくり初級編」）
- ・もちつき大会の様子
- ・企画展示案内（指定文化財展「ふくしまの重要文化財Ⅹ 福島市和台遺跡」）
- ・本年度のおでかけまほろん
- ・「まほろん冬まつり」のお知らせ
- ・研修だより（考古学と関連科学「年代測定」）
- ・シリーズ収蔵品紹介15（へびの装飾を有する縄文土器）
- ・まほろんからのお知らせ（まほろんビデオ上映会「日本の手仕事」開催！）

6 文化財に関する研修事業

1. 研修事業の概要

平成24年度の研修は、期日指定の基礎研修10回、専門研修3回と、臨時に館内や館外で行う特別研修3回の合計16回を実施した。研修を実施した日数は述べ18日、研修の参加者は363人である。昨年度より63人の受講者数が増加した。

2. 研修実施状況

平成24年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下のとおりである。最も参加の多かった市町村等で文化財の保護に携わる職員は、184人で全体の50%を占めている。教職員の参加者は14人で3.8%、文化財関係の市民ボランティアは20人で5.5%を占め、その他一般人・学生が115人で31.6%であった。

基礎研修は、下表に示したとおり考古学基礎講座などを10回実施した。

(1)「考古学基礎講座」は、文化財や考古学に

関する基礎知識を学ぶ講座である。「考古学基礎講座Ⅰ」は、まほろんで収蔵する考古資料の中で、基準になる資料をもとに、各時代の基礎知識を学ぶ講座である。今回は当館学芸員が、白河地方の古墳時代中期から後期の土師器を取り上げた。「考古学基礎講座Ⅱ」は、「福島宝物」をシリーズテーマとし、県内出土の考古資料をもとに、考古学の基礎知識を学ぶ講座である。今回は、白河市建設部都市政策室文化財課の鈴木一寿氏が、白河市大塚古墳、下総塚古墳の埴輪を中心に、ふくしまの埴輪の魅力をわかりやすく解説した。「考古学基礎講座Ⅲ」は、昭和村からむし工芸館の吉田有子氏が、からむしの歴史、利用方法などについて実演をまじえて講義を行なった。



考古学基礎講座Ⅰ

(2)「教職員発掘調査体験研修」は、教職員を対象に例年夏休みの期間に開催しているもので、今回は、会津若松市西木流C遺跡の発掘調査現場を会場とした。講師は当館学芸員が務め「調査技術者研修」も併せて実施した。

(3)「無形の文化財研修」は、無形の文化財の基礎知識と調査方法を学ぶ研修である。今回は、当館学芸員が民俗芸能の調査・記録・活用の方法などに関して講義した。

(4)「体験学習支援研修」は、教職員や生涯学習施設の指導者を対象にした講座である。「体験学習支援研修Ⅰ」は、奥会津博物館を会場に型染工芸技術伝承者の芳賀文助氏が、藍染の方法



体験学習支援研修Ⅰ

文化財研修状況

区分	研 修 名	講 師	実施日	受講者数	場所
基礎研修	考古学基礎講座Ⅰ 「収蔵資料（古墳時代）」	高橋信一（当館専門学芸員）	5月26日	13名	館内
	考古学基礎講座Ⅱ 「ふくしまの宝物（埴輪）」	鈴木一寿（白河市建設部都市政策室文化財課主査）	6月9日	13名	館内
	体験学習支援研修Ⅰ 「染色（藍染めの基礎）」	芳賀文助（型染工芸技術伝承者）	7月14日	9名	南会津町
	教職員発掘調査体験研修	菅原祥夫（当館専門学芸員）・稲村圭一（当館主任学芸員）	8月1日～3日	9名	会津若松市
	調査技術研修	菅原祥夫（当館専門学芸員）・稲村圭一（当館主任学芸員）	8月1日～2日	6名	会津若松市
	土器復元研修	山岸英夫（当館副主幹）	8月25日	4名	館内
	考古学基礎講座Ⅲ 「衣について」	吉田有子（昭和村からむし工芸博物館 学芸員補）	9月8日	20名	館内
	無形の文化財研修 「民俗芸能」	大山孝正（当館主任学芸員）	9月22日	9名	館内
	体験学習支援研修Ⅱ 「土器づくり」	稲村圭一（当館主任学芸員）	12月22日	2名	館内
	文献資料と地方史研究 「文献を基にした相双地方の考古学の歩み」	玉川一郎（福島県考古学会副会長）	3月2日	21名	南相馬市
専門研修	専門考古学講座Ⅰ 「東北地方古墳研究の新知見」	菊池芳朗（福島大学行政政策学類教授）	7月7日	28名	館内
	文化財保護指導者研修会	山本誠（福島県教育庁文化財課主査）	10月10日～11日	134名	猪苗代町
	考古学と関連科学 「年代測定」	早瀬亮介（加速器分析研究所白河分析センター試験研究課長）	12月8日	27名	館内
特別研修	臨時館内研修	当館職員	臨時的	4名	館内
	臨時館外派遣研修	当館職員「火おこし研修」	5月27日	20名	西郷村
	特別研修 「博物館学外実習」	当館職員	9月25日～29日	30名	館内
	特別研修 「震災からの復興」	阿部浩一（福島大学行政政策学類准教授）	6月30日	14名	館内

を実技指導した。「体験学習支援研修Ⅱ」は、当館学芸員が、焼成の必要が無いにはわ粘土を用いた、ミニチュア土器作りの方法を解説した。

(5)「土器復元研修」は、当館学芸員が初歩的な土器の接合と石膏充填の方法を実技指導した。

(6)「文献資料と地方史研究」は、文献資料を通して県内の地方史を学ぶ研修である。今回は相双地方の考古学の歩みをテーマに、南相馬市博物館を会場として、福島県考古学会副会長の玉川一郎氏が泉官衙遺跡、山岸硝庫跡、野馬土手跡について講義を行なった。



文献資料と地方史研究

専門研修は、専門考古学講座などを3回実施した。

(7)「専門考古学講座」は、文化財や考古学の専門的知識を深める講座である。「専門考古学講座Ⅰ」は、東北地方古墳研究の新知見について、福島大学行政政策学類教授の菊地芳朗氏が、最新の研究成果を解説した。

(8)「文化財保護指導者研修会」は、市町村の文化財保護審議委員を対象として毎年会場を変えて行う研修会である。今回は猪苗代町の施設や遺跡・史跡を会場として、当館の菊池徹夫館長の講演、猪苗代町教育委員会生涯学習課の兼田芳宏氏の事例報告、福島県教育庁文化財課主査の山本誠氏の講義や、史跡の見学を実施した。

(9)「考古学と関連科学」は、考古資料の分析や保存などに関する科学的知識を学ぶ研修であ

る。今回のテーマは「年代測定」で、加速器分析研究所白河分析センターの早瀬亮介氏が、放射性炭素年代測定の原理、作業方法の概要、実際の測定例について解説し、加速器分析研究所白河分析センターの測定施設を見学した。

特別研修は、例年通り「博物館学学外実習」を5名の大学生の参加を得て実施した。また、福島大学行政政策学類准教授の阿部浩一氏を講師に招き、「震災からの復興—福島県の歴史資料保全活動—」を実施した。このほかに、「臨時館内研修」を2回、「臨時館外研修」を1回実施した。

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 復元品製作研究

復元品製作研究は、平成24・25年度の2カ年度にわたり、玉川村栗木内遺跡出土の古代末の八稜鏡を復元して研究する計画を立て、平成24年度は、資料の属性などを調査して、鏡・鏡箱の復元品の設計することとした。鏡および付着物の検討には、国立歴史民族博物館永嶋正春准教授、鏡のX線CTスキャンによる三次元精密測定には、九州国立博物館今津節生博物館科学課長の協力を受けた。

2. 研究紀要

学芸員の館業務や館収蔵資料に関する研究の成果は、『研究紀要2012』として編集・発行した。

8 ボランティアの運営

1. 募 集

第2期の指定管理者選定の後、新しい「まほろんボランティア」の募集を行った。(募集期間：平成21年2月10日～3月5日)

申し込み資格は、①平成21年4月1日現在で18歳以上(高校生は除く)、②無償で活動できる方(保険料は当館負担)、③毎月2日間以上(1日2時間程度)活動できる方である。

2. 登 録

当館に登録するボランティアの名称を『まほろんボランティア』と呼び、登録形態は「個人

登録ボランティア」とする。

個人登録ボランティアの登録状況は別表のとおりである。

データベースアクセス数一覧

平成24年度登録者数	43名 (男性27名・女性16名)
内訳	
1. 最年長	85歳
2. 最年少	23歳
3. 平均年齢	64歳 (男65歳、女64歳) (平成25年4月1日現在)

3. 活動内容

主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 体験学習(実技講座・団体等)の支援
- イベント(餅つき大会等)の支援
- 体験学習器材の製作
- 野外展示の火焚き管理
- まほろんオリエンテーリング
- 植物観察ツアー
- アンギン編み



ボランティアによる火焚き管理と展示解説

4. 受け入れ体制

当館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休息室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に3名のボランティア担当者を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、4月14日(土)、10月7日(日)、3月23日(土)にまほろんボランティア連絡会を開催した。

9 その他

1. 年報2012の発行

当館の平成23年度1年間の活動をまとめた年報を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に送付した。

2. 運営協議会の開催

福島県文化財センター白河館運営協議会は、館長の諮問機関として、年2回開催している。

なお、平成24年度の委員6名は次のとおり。

- ・藤沼 邦彦：前弘前大学教授、再任
- ・日下部善巳：前二本松市立岳下小学校長、再任
- ・平出美穂子：郡山女子大学准教授、再任
- ・藤田 充：西白河小中学校長連合協議会長、再任
- ・和知 延：白河市文化財保護審議会委員、再任
- ・新山雄次：国立那須甲子青少年自然の家所長、新任

(1) 第1回運営協議会

日時：平成24年9月8日(土)

場所：会議室

協議内容

- ・福島県文化財センター白河館の概要
- ・平成23年度白河館の事業について
- ・平成24年度白河館の事業について
- ・被災文化財の保管施設設置について
- ・その他

(2) 第2回運営協議会

日時：平成25年3月9日(土)

場所：会議室

協議内容

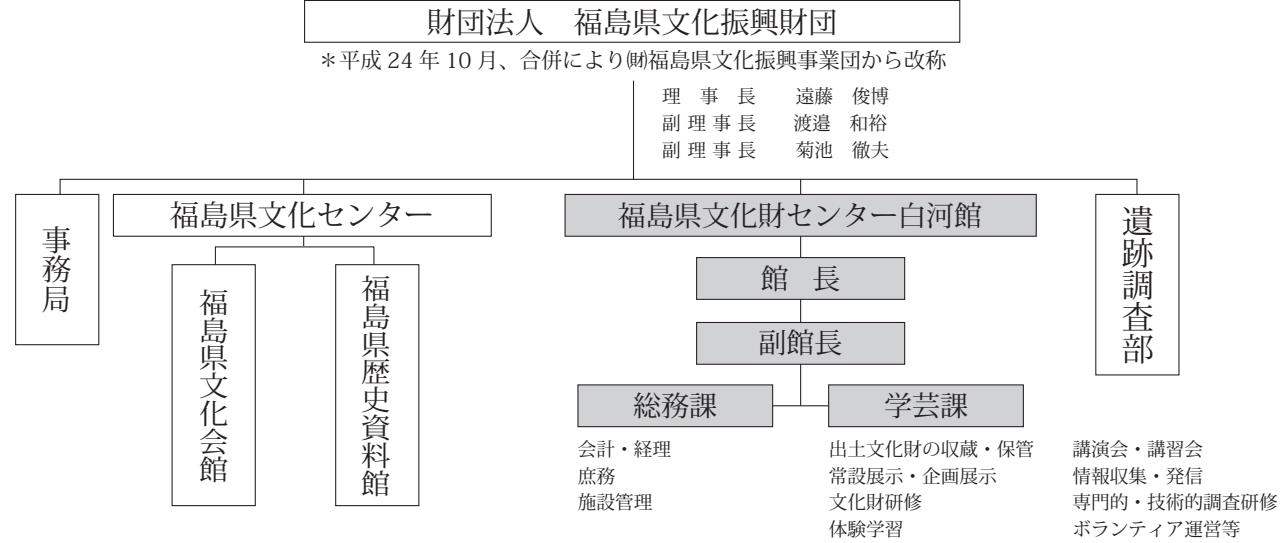
- ・平成24年度白河館の運営状況について
- ・平成25年度白河館の事業について
- ・被災ミュージアム再興事業について
- ・その他

3. 博物館学学外実習

県内の大学生、県内出身の大学生を対象として博物館学学外実習をおこなった。

第3章 平成24年度の組織と予算

1 組 織



在籍職員名簿

職 名		氏 名	職 名		氏 名
館 長		菊 池 徹 夫	学 芸 課	主任学芸員	國 井 秀 紀
副 館 長		吉 田 豊 吉		主任学芸員	吉 野 滋 夫
総務課	課長(兼務)	吉 田 豊 吉		主任学芸員	大 山 孝 正
	副 主 幹	鈴 木 智 子		主任学芸員	丹 治 篤 嘉
	副 主 査	新井田 泰 徳		主任学芸員	稲 村 圭 一
	事務補助員	鈴 木 智 子		主任学芸員	山 田 英 明
	物品販売補助員	水野谷 聡 美		学芸員	山 本 友 紀
学芸課	課 長	芳 賀 英 一		アテンダント	佐 藤 あかね
	副 主 幹	山 岸 英 夫		アテンダント	河 西 久 子
	専門学芸員	石 本 弘		アテンダント	小 泉 令 子
	専門学芸員	高 橋 信 一		アテンダント	独 鈺 亜由美
	専門学芸員	佐々木 慎 一		アテンダント	栗 山 文 恵
	専門学芸員	菅 原 祥 夫	職員総数 24名		

2 予 算

管理運営費会計		物品販売会計	
<収入>		<収入>	
・ 指定管理者委託料	236,911,000円	・ 事業収入(物品販売収入)	3,506,797円
・ 雑収入	202,350円	・ 雑収入	52,419円
・ 合計	237,113,350円	・ 合計	3,559,216円
<支出>		<支出>	
・ 文化財センター白河館管理運営費	237,113,350円	・ 事業費	3,350,814円
・ 合計	237,113,350円	・ 租税公課費	58,477円
		・ 合計	3,409,291円

第4章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館
 (愛称：まほろん)
 所在地：〒961-0835
 福島県白河市白坂字一里段86番地
 設置者：福島県
 開館：平成13年7月15日
 管理機関：財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51㎡
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
 体験学習館 133.627㎡
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
 (本館2,400.046㎡、収蔵庫棟
 2,999.769㎡)
 体験学習館 92.71㎡
4. 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
5. 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91台 (うち身障者用4台)
 - ②大型車駐車場 10台
 - ③臨時駐車場 40台
 - ④職員駐車場 21台
 - ⑤駐輪場 28台
6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：
 - ・受電方式／高圧6.6KV1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
 - ・非常照明設備・誘導灯設備：

建築基準法に基づいて設置

- ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
- ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
- ・電話設備：

電子交換外線4回線 (ISDN) 内線55回線

- ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視

2. 空調設備

- ・空調方式
 一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式 (一部空冷HP) + 静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト (空冷冷専パッケージ+電気ヒーター+アルカリ除去フィルターユニット) 方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト (ガスエンジンHPP) 方式
- ・熱源：都市ガス (ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

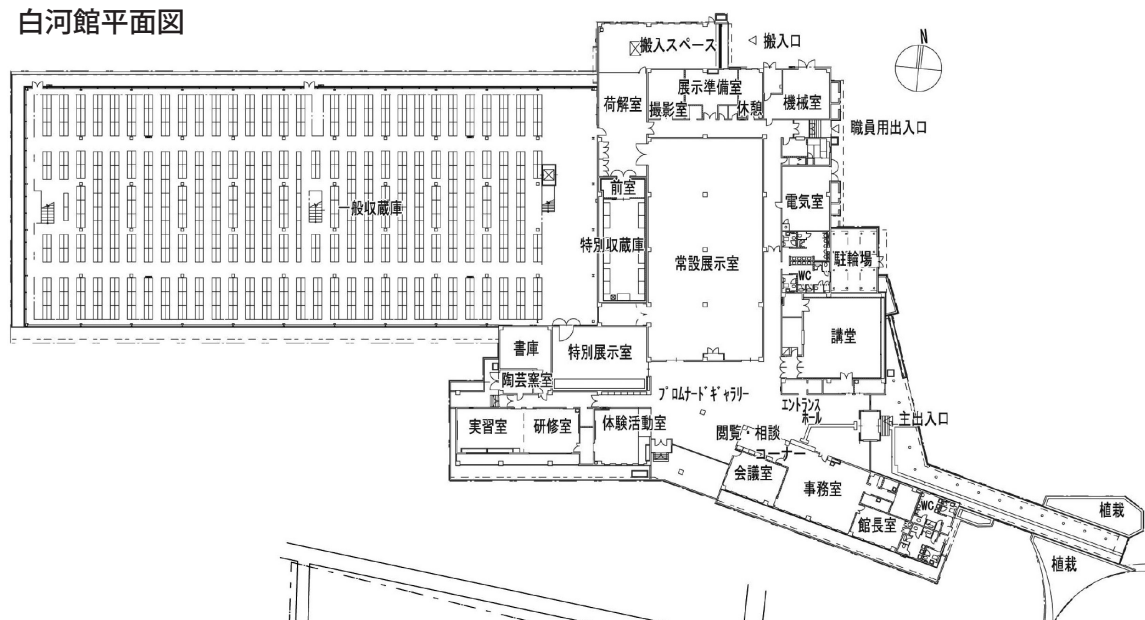
- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流 (最終枳でポンプアップ) 方式で下水道本管へ放流、
- ・雨水；側溝放流
- ・多目的便所：屋内1箇所 (男女別)、屋外1箇所 (男女別)、トイレ呼出設備付

◎工期 着工：平成11年7月12日
 完成：平成12年10月16日

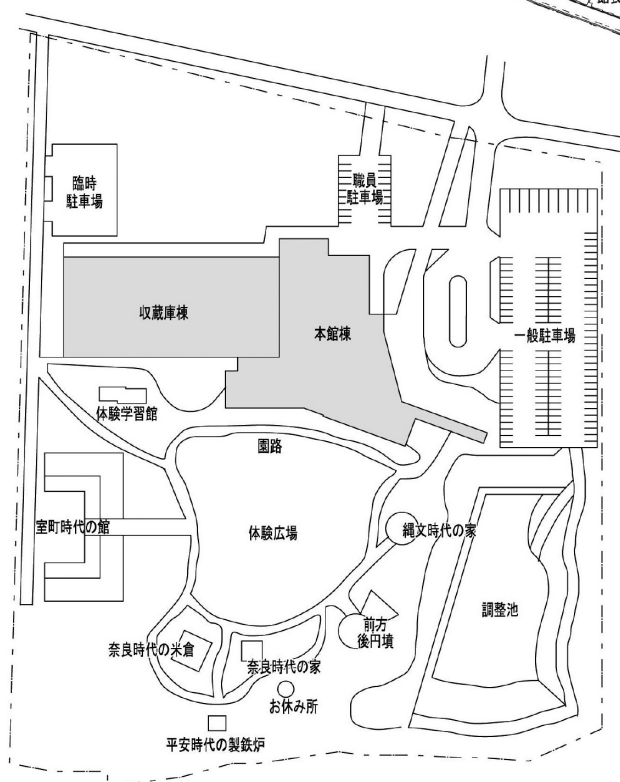
◎総建設費 3,300,625千円

- ・内訳 建築費 2,690,848千円
- 公有財産購入費 222,095千円
- その他の経費 387,682千円

白河館平面図



白河館配置図



主要緒室面積表 (㎡)

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		車庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16				
救護室	9		体験学習館	93	

第5章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。
一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

一 第三条各号に掲げる業務に関すること。

二 白河館の維持管理に関すること。

三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。

2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。

3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七年条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八年条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。（施行の日＝平成一三年七月一五日）

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

まほろんの利用案内

開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合はその翌日、GW・夏休み期間中は開館）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年末年始（12月28日～1月4日）

入 館 料 ・ 無料

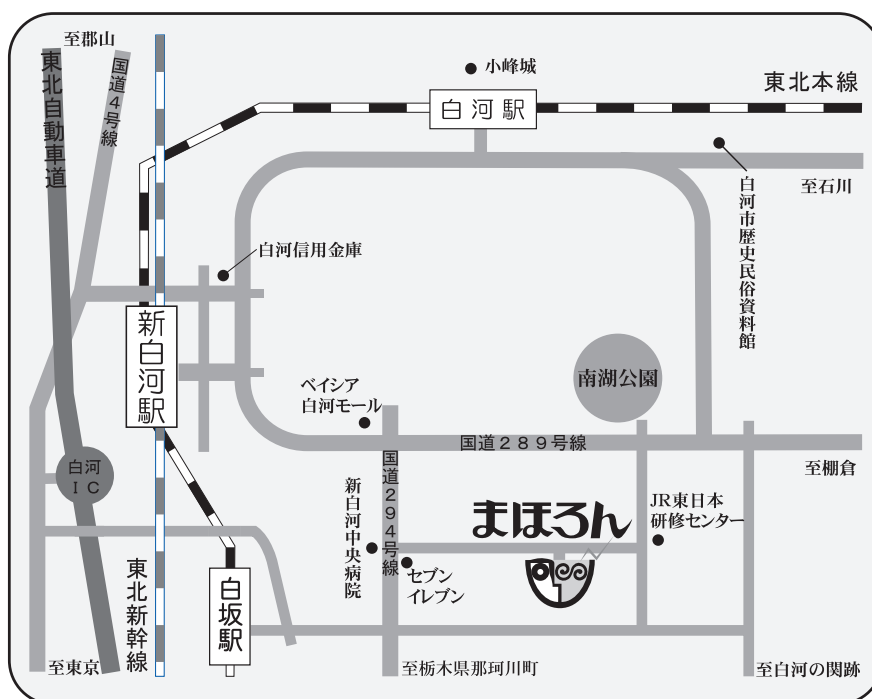
交通案内 ・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまほろんバス停下車

・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から福島交通バス（白坂駅経由白坂・白坂駅行き）まほろんバス停下車

・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅からJRバス（棚倉行き）南湖公園下車徒歩25分

・ 東北自動車道白河I.C. から車で20分

そ の 他 ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館

年報 2013

平成 25 年 12 月 18 日発行

編集・発行 財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館

〒 961-0835 福島県白河市白坂一里段 86 番地

TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075

<http://www.mahoron.fks.ed.jp>
